

獣害再発防止対策の推進による被害の減少

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

大津市の野生獣被害は、防護柵の整備や捕獲の強化により年々減少しているものの、集落によっては被害が継続していたり、一時的に被害が収まっても再発しています。昨年はそれらの被害が発生している 15 集落を対象に、被害再発防止対策の実践が進むよう支援したところ、多くの集落で被害が減少しました。今年度は、残された課題として要望の大きかったサル対策やイノシシの侵入防止対策に絞り、活動しました。

【普及活動の内容】

- ① A集落では、サルの追い払いを強化する新たな手法として ICT 技術を活用したシステム構築を同集落の獣害対策委員会に提案しました。委員会で提案を受け入れる意向が示されたことから、三重県の NPO 法人が開発した「サルどこネット」の導入に向け、委員会と連携して近隣集落にも呼びかけるとともに、システム活用説明会を開催することにより、ネット登録手続き等が円滑に行われるよう支援しました。テスト運用を開始してからは、1 回/月の検証会議でトラブル解消に努めました。
- ② 柵を各集落で維持管理するため、ほ場巡回や J A 主催の農談会を活用し、点検修理の情報提供や意識啓発を行いました。
- ③ イノシシ侵入防止のため、柵に目隠しシートを張る新技术について、委員会と連携し実証試験に取り組みました。



写真 研修会で新技术を紹介

【普及活動の成果】

A 集落を核とした近隣集落でのネットシステムによる新たな追い払い体制が構築されたことで、これまでに 22 回の出没情報が発信され、効率的な追い払いを行うことができました。また目隠しシートを設置したほ場では侵入がなく、新たな柵による侵入防止効果の強化策を普及させる足がかりができました。これらの結果、活動を始めた一昨年に比べ、14 集落で被害が減少しました。

◎対象者の意見

サル追い払いシステムができたので、地域に広げて効果的な対策にしていきたい (A 集落獣害対策委員長)。